

日 時：平成 29 年 2 月 18 日（土）10 時～ 11 時

場 所：松山城三之丸跡 19 次調査・現地（松山市堀之内）

主 催：公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団（埋蔵文化財センター）

まつやまじょうさんのまるあと 松山城三之丸跡 19 次調査の発掘調査説明会

国史跡「松山城跡」は、独立丘陵である勝山を中心に構成された近世の城郭です。三之丸跡は、松山城の郭の一つで、現在の堀之内に位置します。

松山市では城山公園堀之内地区の整備を進めており、江戸時代の土地区画の確認や遺構の保護を目的に、過去の調査や古絵図などを参考に確認調査を実施しています。今回の調査では、馬場土手や三之丸御殿東端付近で溝を確認し、江戸時代における松山城三之丸の様子を探る手掛かりを発見しました。

なお、調査は松山市都市整備部公園緑地課の委託を受けた公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団 埋蔵文化財センターが担当しました。

三之丸には何があるの

- ・藩主の屋敷（三之丸御殿）
- ・藩の役所（会所、勘定所、小普請所、御用米蔵など）
- ・上級武士の居住区

三之丸に関する主なできごと（太字は今回の調査に関係するもの）

- 慶長 7（1602）年 加藤嘉明、三之丸ほか築城に着手
- 寛永 4（1627）年 蒲生忠知、松山に転封。この頃、築城工事完成
- 寛永 12（1635）年 松平定行、松山に転封。
- 寛永 16（1639）年 三之丸に長蔵（御用米蔵）を設置
- 寛文 元（1661）年 三之丸に杉馬場を設置**
- 貞享 4（1687）年 三之丸に藩邸（御殿）を新設**
（四代藩主定直が造営してから歴代藩主の居住地）
- 天保 12（1841）年 三之丸の小普請所と勘定所を焼失
- 明治 元（1868）年 土佐藩へ城明渡し
- 明治 2（1869）年 三之丸藩邸を新政府の松山藩庁として開庁
- 明治 3（1870）年 三之丸御殿焼失**
- 明治 4（1871）年 三之丸全域は兵部省の管轄となる
- 明治 11（1878）年 松山兵舎を創設
- 明治 17（1884）年 歩兵二十二連隊を配置
- 昭和 27（1952）年 松山城跡、国史跡に指定

〔用語解説〕

遺 構：過去の人が活動した痕跡。

本 丸：城の中心部にあり最も重要な建物。

二之丸：城主の生活や政務に使われ、城主が三之丸に移転後は、お世継ぎのお屋敷として使われた建物。

土 塁：敵の侵入を防ぐために土で築かれた土手。

馬 場：乗馬を行うための場所。

絵 図：当時、描いた家や道などの絵図面。



写真1 現在の松山城

この写真は以下の著作物を改変して利用しています。

『松山城（全景）』松山市



第1図 松山城屏風絵（元禄年間 1688 年～ 1704 年）愛媛県歴史文化博物館所蔵



第2図 亀郭城秘図（文久 4 年 / 1864 年）伊予史談会所蔵

■ 1区 地下約3mから江戸時代に造られた馬場の土手を確認しました。また、明治3年に焼けた三之丸御殿のものと考えられる陶磁器や瓦などが、灰色土から出土しました。(第3図)

①馬場土手：土手は二つ見付き、黄色粘土質の土を積んで造られていた。(写真2～4)

土手1 - 検出長6.0m、幅1.3m、高さ17～40cm

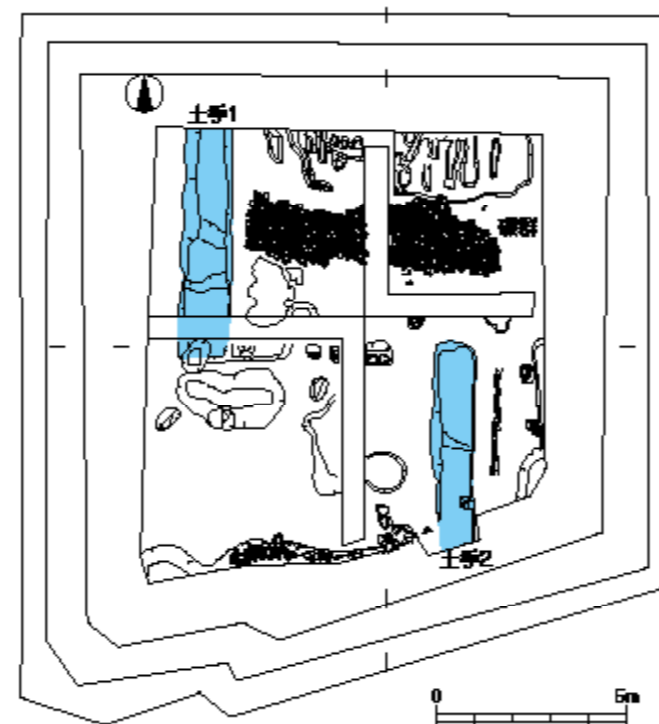
土手2 - 検出長4.7m、幅1.0m、高さ14～44cm

②灰色土：炭に混じり、陶磁器や瓦が50箱(20ℓ箱)程出土しました。これらの遺物は御殿で使われていた可能性が高く、御殿焼失後に地形の低い当地に埋められたものと考えられます。

③出土品：食膳具(碗・皿・猪口)、調理具(搗鉢)などが多くあり、土人形、土製鳩笛、貨幣(「寛永通宝」、キセル、カンザシ、土師器(小皿・焼塩壺)なども出土しました。碗・皿などの陶磁器には砥部焼や肥前(佐賀県・長崎県)地方の焼物などがあります。



写真2 1区で検出した遺構



第3図 1区の遺構配置図



写真3 土手1と礫群
* 礫群は明治以降のものです。



写真4 土手2(手前)と土手1(奥)

■ 2区 江戸時代の石組溝1条と近代(明治以降)遺構を確認しました。(第4図)

①石組溝：検出した規模は長さ10m、幅0.6～0.7m、深さ0.5～0.6mで、石を1段並べた状態で発見され、地形の高い北側では石が抜き取られていました。石組は西側の石に比べて東側の石が大きく、石の裏には栗石があることから、石はもともと2段または3段積まれていた可能性があります。溝は地形の高い北側にさらに延びることが予測され、調査地は三之丸と西之丸の境付近であることが分かりました。(写真10)

②近代遺構：日本陸軍の石垣、建物跡(礫石)、水路などの施設跡を発見しました。丸みをもつ江戸時代の石組と比べ、近代の石垣の石は角ばり(礫石)、石垣の目地や水路の底にはコンクリートが使われています。(写真5・6)



写真5 西側調査区で検出した近代の構築物



写真6 東側調査区で構検した近世～近代遺構



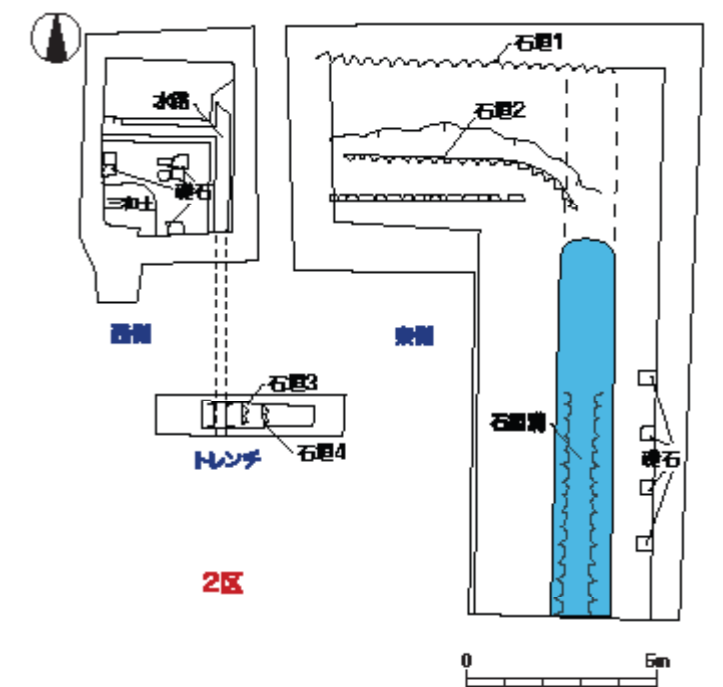
写真7 土製の鳩笛



写真8 土製の人形



写真9 砥部焼の碗



第4図 2区の遺構配置図



写真10 石組溝